

さわ病院

住所	豊中市城山町1丁目9番1号	電話	06-6865-1211
病床数	505床	病棟数	8病棟

人権センターニュース No. より
オンブズマン活動報告

平成19年7月20日訪問
平均在院日数107.4日(平成19年6月時点)

病院全体について

病院側の説明 入院期間を短くし、患者が望むところでの生活を実現させるためには、精神科救急の態勢が確保されていることが必要という考えから、救急の治療をきちっと受けられる態勢に力を注いでいる。2008年度に大正区に救急の受け入れができる病棟をつくるので、その分こちらの病床を減らす。

院内寛解の患者はいないが長期入院の患者はいて、そのような患者に対して何かできることはないかと考えている。外泊の体験などをしていただき、その結果をもとに、退院できるかできないか一緒に考えるようにしている。家族が主治医と面談できる時間を週に1度設定している。

外泊の訓練をする部屋は福祉ホームのある建物内に1ルーム2部屋とケアつきアパートに2DK(家族と一緒に泊まれる)1部屋。1人用600円/泊、家族用1000円/泊。職員や医師も泊まることがある。

【医療福祉相談室】同じフロアに訪問看護ステーションや地域包括支援センター等もあった。ケースカンファレンス専用のスペースがあり、予約がつかまっていた。法人全体のPSWは約50名で、病棟担当が12名。入院案内に挟まれた「精神保健福祉士のお知らせ」には、相談できる内容や担当者等が記載されていた。患者から詰所に申し出があれば、すぐにPSWに連絡が入る。PSW面談料が1回3465円となっていて、「文書で必ず記録しています」との記載があった。この面談は、患者から希望があれば行い、記録された情報は多職種で行うカンファレンスで使われたり、退院に向けてどうしていくのかのもととなる。(病院側の回答：実際は生活保護者の方が多く、無料のサービスとなっている場合が多い。)

【敷地内の禁煙】2005年2月より病院敷地内の完全禁煙を実施している。

(1)人権擁護委員会：外部委員は弁護士。委員長は院長以外の医師でサブはPSW。開催頻度は1回/月。投書箱の設置は各病棟と外来。回収は1回/週。原則は本人に返答し、名前を書かれていないが病院や病棟全体に関わる意見の場合には掲示をするときもある。意見箱横には意見箱の使い方の掲示があった。

(2)行動制限最小化委員会：設置されている。

(3)担当制：重度患者の多いC2、C3病棟では主治医以外に病棟ごとに2名ずつ病棟担当医を設置している。病棟内で積極的にカンファレンスを行っている。入院時点から退院に至るまで受け持つ看護師とその日に担当をする担当看護師がいる。その日の担当看護師は必ず患者さんのところに行きあいさつをし、困り事などがないか聞くことになっていた。病棟担当のPSWがいる。申し送りにも参加する。

(4)診察：診察室。回数は1回/週以上。

(5)服薬：看護師がベッドサイドに持って行って渡す。話をする機会になる。退院に向けて、「詰所に取りに来る、1日分、3日分、1週間分ずつ自己管理をする」という段階が設けられている。

(6)外出：閉鎖か開放の2段階。開放の患者は病院外にも外出できる。閉鎖処遇の患者は週2日、患者5名に看護師2名がついて病院前の売店へ買物に行く。

前回の訪問時(2004年2月)には、いくつかのトラブルにより、地域住民との話し合いの中で、外出時に指定のサンダルを履く必要性について検討中とのことであったが、現在はそのようなしきみはなかった。単独で外出する患者は緑のバッジをつけることになっていた。外出している患者がバッジを外したからといって罰則があるわけではない。地域住民との約束事として、病院の隣にある附属の看護専門学校の前には、常時、病院職員(主に精神保健福祉士の研修生、法人内のPSW)が座っていた。玄関のガードマン(車の誘導や外来患者の自転車

の整理も行う)も住民との話し合いの中で設置することになっている。地域と病院(外来、入院患者)を見守っているという位置づけである。

(7)金銭管理料:210円/日。売店に委託していて、いつでも出し入れできる。あいあいネットも選択できるが、週1回しか出し入れできないので使われていない。鍵付きロッカーのついた床頭台の使用料は105円/月。テレビ、DVDプレーヤー、冷蔵庫、鍵付き部分3ヶ所がある。105円を支払わない患者は鍵のかからない部分に荷物をいれることができる。

(8)食事の選択メニュー:なし。

(9)入浴:週に3回。

(10)面会:面会室は病棟内にある。デイルームや一緒に外出をされることも多い。面会時間は平日13:00~16:00/休日、水・日・祝祭日9:00~16:00(病院側の回答:実質は家族の都合で準深夜帯に入ってから受けています。)

(11)携帯電話:入院時に持込できない。

(12)院内売店:病院前にある。外部委託。現金か伝票で支払う。伝票で購入する患者には毎月明細が出る。(病院側の回答:要望があれば棟内で3分以内にはコンピューターで確認・見ることができます。)入院の案内に「一真堂(売店名)に入金されている方は(略)1回の買物は700円までです」と記載があった。

病棟について

全体的に明るく、清潔感があった。詰所はオープンカウンターで、夜間や申し送り時にはカウンター上が閉まる病棟もあった。詰所は施錠されておらず常時職員が病棟と詰所を出入りしていた。

【病室】B3、B4病棟では約30室が個室。2人部屋の観察室があり、その他は3~4人部屋が中心だった。全てのベッドサイドにはナースコール、個室以外の病室のベッドサイドにはカーテンがあった。個室入口ドアの窓ガラスは、磨りガラスに真ん中10cm程度が透明になっていた。

【トイレ】各個室にナースコールがあり、洋式トイレはウォシュレットだった。個室の鍵は足元近くの低い位置に付けられていた。自殺防止ということらしい。手洗いには石鹸、温風器があった。

【電話】デイルームやその近くにあり、周りに囲いが設置されていた。「患者の権利宣言」「さわ病院(精神科)医療における患者の権利に関する8原則」の掲示があった。

A5病棟(精神一般15:1・閉鎖・男女)

病院側の説明 亜急性期、慢性期の患者が中心。10~15名/月くらいの入退院や転棟がある。長期在院患者が多い。この病棟のみSSTがある。基本的には個人プログラムが行われている。さらに退院に向けた服薬や金銭の自己管理を増やしたいと考えている。

病棟の様子 デイルームには大きな窓があり、明るかった。飲物・TVカードの自動販売機、絵画、カレンダー、漫画、本、雑誌が置かれていた。音楽が流れていた。たくさんの患者がいて、看護師に声をかけたり、患者同士で話をしたり、寝ていたりめいめいに過ごしていた。外出先や時間を書き、詰所の看護師に声をかけ、ドアをあけてもらって外出をする患者が数名いた。病棟の奥にもう1つデイルームがあった。植物を囲んでたくさんのソファがあり、数名の患者が静かに過ごしていた。

B3、B4、C3病棟

病院側の説明

B3(精神科救急・閉鎖・男性):急性期の患者が中心。金銭もテレカも原則は自己管理。救急治療に対応できるスタッフの質の均質化が大変。マニュアルなどで均質化を保持できるように努めている。

B4(精神科救急・閉鎖・女性):入院、退院、転棟が多い。任意入院で開放処遇が可能になれば退院か開放病棟へ移る。看護師が毎日全ての患者のところに行き、話をきくようにしている。

C3(精神一般・閉鎖・男性):慢性期、亜急性期の患者が中心の病棟。平均在院期間4.9年。病棟主治医制度で医師が集中的に患者を診られるようになった。医師と病棟スタッフが協同して退院に関わっていく。

病棟の様子 B3、B4、C3

施錠された高さ1メートル程度の仕切りで、3つのゾーン(隔離室・観察室・一般病室)に分かれていた。各

ゾーンにデイルーム、公衆電話があった。メインのデイルームは白を基調とした空間に大きな窓があって、明るかった。B3、C3病棟には作品などはなく、B4は作品や花のアレンジメントがいくつか置かれていたが、全体的にはこざっぱりと整理されている印象だった。

B3 電話をかけようとしている人のそばにテーブルがあり、2名の患者が座っていた。患者の声「テレビとラジオがない。情報がない」「食事はおいしいけど、足りない。おやつがない」「面会は週2回くらい」「米が悪い。味付けが悪い。量は良い」「お金を一銭も持っていない」「部屋は大きく、トイレも使いやすい」「エアコンは寒いので、切ってもらっている」

B4 実習生と1対1で話し込む患者が数名、食事をしている患者が1名、面会者と外出から帰って来た患者が数名いた。

C3 数名の患者が別々の場所に座ってジュースを飲んだり読書をしたりしていた。静かだった。患者の声「療養環境は良いと思う」「治療計画書は見たことがない。先生が握っている」「食事のメニューは良いが、おかわりできないのでもう少し量を増やしてほしい」「職員はよく話を聞いてくれる」「風呂は月水金で、1度に最高7人入る」「女性職員に裸を見られるのが恥ずかしい」「シーツ交換が木曜日にあり、自分で交換しなければならない(病院側の回答:看護が指示するのではなく、一緒にしたり、退院に向けて見守りのもと単独でももらっています。)」
「読書のための電気スタンドが欲しい」「5階にOTセンターがあり、映画を見たり、卓球をしたりしている。月曜日には歌唱会があって20名ほどの人が予約して参加する。職員は5、6名いる」「グリーンバッジを持っている人は、いつでも外出できる」

【隔離室】(B3、B4には各7室、C3には4室)

詰所に隣接して隔離室ゾーンがあった。トイレの周りには壁があり、個室にもなる。水洗は切り替え式。モニターカメラはなく、集音マイクが設置されている。扉の開閉によって、隔離室内の空間利用の設定を変更することができる。壁はベージュで弾力があり、床も柔らかい素材だった。ベッドは患者の状態によって壁に収納ができる。窓は大きく、明るかった。窓は二重構造で窓との間にスクリーンがあり、光の調整ができる。トイレの中と隔離室出入口近くに洗面台があった。トイレ横の窓の磨りガラスは、外側のスイッチで透明にすることもできる。トイレトーパー、時計があった。

検討事項

【患者の声より】

複数の患者から「診察の回数が多いのはいい(嬉しい)が、医師が突然やってきて『どうですか?』と言われてもなかなか答えにくい」等の声があった。(病院側の回答:医師はその日に来て予定を組んでも、急遽救急などがあり、おそらく診察できると思われる日を伝えることが精一杯。)

【社会資源の情報】

病棟内に紙面で見ることのできる社会資源の情報がなかった。(病院側の回答:百聞は一見にしかずで、そのような話が出れば見学に連れて行っている。今後、やって悪いことではないので検討する予定。)

【主治医の診察について】

C3病棟では「定期的な診察はない。先生も忙しいので月に2、3回。面談希望を出せば、その都度会ってくれる」「診察は月に1度、詰所で」との声があった。(病院側の回答:医師は患者の病状の変化、病期によって面接の回数を考えている。また時期によってはコメディカルの関わりを多くして、その報告を受けて診察をするというような場合もあり、その場合は月に1回になることもある。但し、要望があれば応えているはずである。)

人権センターが情報公開請求で入手した

H19大阪府精神保健福祉関係資料より(さわ病院分)

475名の入院者のうち統合失調症群が327名(69%)、認知症など症状性を含む器質性精神障害が55名(12%)、気分障害が53名(11%)、入院形態は任意入院156名(33%)、医療保護入院312名(66%)、措置入院5名(1%)。在院期間は1年未満が304名(64%)、1年以上5年未満が114名(24%)、5年以上10年未満が31名(7%)、10年以上20年未満が16名(3%)、20年以上が10名(2%) (H19.6.30時点)